

## ◇ 中学年部の研究 ◇

### 1 学年部研究主題

進んで音楽にかかわり、友だちと共に楽しむ児童をめざして

### 2 学年部研究主題設定の理由

中学年の児童は、活発で活動的であり、低学年の頃と比べ自立心が芽生えてくる。コミュニケーション力も高まり、友だちといっしょに活動することを好むようになる。その中で友だちから刺激を受け、自分もできるようになりたい、自分も挑戦してみようという意欲も高まり、様々な活動に自主的に取り組むようになる時期である。

本校において、週に一度行われている「うたごえタイム」では、3年生は上級生の音楽委員に活動を進めてもらい、4年生になると音楽係を中心に自分たちで内容を考えて取り組んでいく。「うたごえタイム」や「音楽集会」の異学年交流を通して、上級生からは響きのある歌声を受け継ぎ、低学年には進んでお手本を示そうとする姿が見られるようになる。また、合唱団や吹奏楽団に入団し、課外の音楽活動に積極的に参加する児童も増えてくる。

音楽の学習においては、教師の指導で表現を工夫して楽しむ段階から、自らの力で表現していくことが徐々にできるようになっていく。上級生の歌声にあこがれを抱き、それに近づこうと発声を意識して歌ったり、リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、自分で演奏できる楽器の選択肢が増えたりしたことで、音楽表現への意欲の高まりが見られるようになる。自分の思いを表現しようとするだけでなく、考えや気付きを友だちと伝え合い、共に音楽表現を工夫することに喜びを感じ、音楽活動の幅も広がっていく。

そこで、中学年部では、一人一人が思いをもち、友だちと意見を交流し合いながら音楽の楽しさを味わって活動に取り組む姿を目指し、学年部主題を「進んで音楽にかかわり、友だちと共に楽しむ児童を目指して」と設定した。

### 3 学年部研究主題のおさえ方

ニコニコ輝く	キラキラ輝く	いきいき輝く
楽しくかかわり、表現の楽しさに気付き、音楽を聴く能力が育っている姿	進んでかかわり、表現の楽しさを感じ取り、音楽を聞く能力が伸びている姿	創造的にかかわり、表現の楽しさを味わいながら感じ取り、聴く能力を高めている姿

### 4 研究の視点

- (1) 思いや意図をもって歌ったり演奏をしたりしながら、進んで音楽に関わりをもたせる指導の工夫
- (2) 音の響きやその組み合わせの面白さを感じ取り、様々な発想をもって音楽をつくるための指導の工夫
- (3) 音楽の特徴やよさを自分の言葉で表現するための指導の工夫

### 5 公開授業の見どころと視点との関わり

- 本授業における視点との関わりは(1)である。
- ・思いや意図をもって表現するための指導の工夫
  - ・一人一人の思いや意図を生かし、共に学び合うことができるような学習形態の工夫
  - ・一人一人の考え方やグループごとの学びのプロセスがわかるようなワークシートの活用の仕方

## 6 中学年部公開授業の指導案

### 第3学年1組 音楽科学習指導案

指導者 3年1組 尾形 裕子

場所 音楽室 多目的室3・4

1. 題材名 曲の気分をかんじとろう

2. 題材のねらい

- 曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようとする。
- 様子を思い浮かべて、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫することができるようとする。

3. 題材について

(1)指導要領との関連

<指導事項>	A表現 (1) 歌唱 ア・イ・エ (2) 器楽 ア・イ・エ
	B鑑賞 (1) ア・イ・ウ
<共通事項>	ア-(ア)音色・リズム・速度・旋律・強弱・音の重なり (イ)反復・変化

(2)題材観

本題材は、曲想を感じ取って、イメージをふくらませながら想像豊かに聴いたり、楽曲の特徴やよさに気付き、そこで学んだことを演奏表現へ生かしていったりすることをねらいとしている。

児童はこれまで、いろいろな曲想をもつ楽曲と出合ってきている。音楽に合わせてイメージしたものを、感覚的に体を動かして表現したり、言葉にして伝えたりしながら楽しんで歌ったり聴いたりする経験を重ねてきた。

これまでの経験を基に、曲想や雰囲気を特徴付けている要素は何かを考えながら聴いたり、歌詞の内容から様子を想像し、場面の雰囲気を感じ取って楽曲にふさわしい演奏を考えたりしながら、歌い方や楽器の演奏の仕方に工夫することができる題材である。

(3)児童観

男子14人、女子16人、計30人の学級である。朝の会や帰りの会、週一回のうたごえタイム、毎月の音楽集会、吹奏楽団や合唱団の活動などを通して音楽に触れる機会が多く、学校生活の中でたくさんの音楽に出合ってきている。

歌唱においては、低学年頃から多くの楽曲に親しみ、高学年の歌声を日常的に耳にしているので、あこがれをもってのびのびと歌う児童が多い。音楽発表会への取り組みにおいて、国語教材と関連させて学習を深め、歌詞の内容に思いをこめて歌おうとしている児童も見られるようになってきた。

器楽では、3学年から学習し始めたリコーダーに意欲的に取り組んでいる。鍵盤ハーモニカよりも運指が楽であると感じている児童が多く、これまでに左手だけで演奏できる曲を多く学習し、いくつかの曲を演奏できるようになった。鍵盤ハーモニカも、リコーダーも、ハ長調の楽譜を見ながら簡単な旋律を演奏することができるようになってきた。しかし、運指に気をとられがちで、曲想を感じ取って思いをもって演奏しようとする児童は少ない。また、譜読みを正確に行えないこともその要因の一つとなっている。

鑑賞では、自分なりのイメージをもって聴くことのできる児童が多いが、音楽を特徴付ける要素と結びつけて聴く力はまだ定着していないところもある。

#### (4)指導観

本題材では、曲想を感じ取らせたり、楽曲を特徴付けている要素を感じ取らせたりすることで演奏に生かすことができるよう、次のように題材を構成して指導していく。

歌唱では、1番と2番の歌詞の違いに注目させ、強弱のつけ方や声の表情に工夫をすることができるようにしていく。また、歌詞唱だけの演奏とリコーダーも加えた演奏とを聴き比べることで、歌とリコーダーの音の重なりのよさにも気付かせていきたい。

鑑賞では、挿絵を活用しながらあらすじを紹介し、児童のイメージをふくらませていく。オーケストラの演奏に关心をもたせ、強弱やリズム、速度などの変化を場面の様子と関連させて聴かせていく。

器楽では、それまでの学習を総合的に発揮できるように段階を追って指導していく。まず、ハ長調の楽譜を見ながら繰り返し練習させ、歌ったり楽器を演奏したりできるようにする。次に、登場人物の様子が分かる歌詞に注目させながら、グループごとに強弱や速度、奏法などを工夫できるようにしていく。そして、グループごとに発表し、聴き合いながらグループごとの演奏の工夫について知る。それを全体で演奏してみることによって、様々な工夫のよさを味わうことができるようにしていく。

#### 4. 教材について

##### A『ちびっこカウボーイ』 阪田寛夫 作詞／アキレス 作曲／長谷川匡俊 編曲

原曲は「Tom Tirlin Tom」という、イタリアのポピュラーソングである。日本語の歌詞も、原曲の内容に添ったものになっている。

曲は、16小節目までの前半とそれ以降の後半に分けられる。前半と後半で、旋律の動きが違うことを感じ取ったり、1番と2番の歌詞の違いからちびっこカウボーイの気持ちを想像したりして、曲の気分を生かした強弱のつけ方や声の表情に工夫をすることができる教材である。後半には、リコーダーパートが加えられ、歌とリコーダーのアンサンブルにも挑戦できる楽曲である。

##### B「ミシシッピ組曲」から『ハックルベリーフィン』 グローフェ 作曲

この曲は、マークトゥエーン著の物語「ハックルベリーフィンの冒険」に登場する少年ハックルベリーフィンが、友達と一緒にいかだでミシシッピ川を下りながら、いろいろな冒險を繰り広げている様子をもとに作られたものである。

オーケストラによる演奏は、豊かな色彩感を醸し出している。元気よく冒險している様子や、危険が迫ってきている様子、その危険を回避して再び元気を取り戻して冒險を続ける様子などが、曲想の変化によって分かりやすく構成されているため、様子を思い浮かべながら聴くことのできる楽曲である。

##### C『ゆかいな木きん』 小林純一 作詞／ 作曲者 不明／ 原由多加 編曲

こざるとこぶたが、丸太の上を一本橋のように渡り歩く様子を歌詞にしてユーモラスに描いている曲である。こざるにとてはゆかいな橋渡り、こぶたにとてはびくびくの橋渡りという対比がおもしろく表現されている。

旋律の音域はハ長調の1オクターブ内にあり、八分音符のリズムを中心として、似たような音型を繰り返しているため、児童にとって視唱や視奏がしやすい楽曲になっている。また、リコーダーや主旋律とは違う鍵盤のパートを加え、楽器の音の重なりを味わいながら合奏を楽しむこともできる。歌詞の内容から、強弱や速度、奏法などの工夫を考えて演奏できる楽曲である。

## 5. 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	様子を思い浮かべながら聴いたり、表現の仕方を工夫したりすることに興味をもって進んで活動している。	歌詞の内容や、曲想を感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫している。	曲想を生かして、表情豊かに歌ったり、楽器を演奏したりしている。	曲想の変化を感じ取ったり、場面の様子を感じとったりしながら聴いている。
学習活動における具体的な評価規準	① 曲の感じをつかみ、様子を想像しながら楽しんで歌ったり演奏したりしている。 ② 場面の様子を思い浮かべながら、楽曲の特徴やよさに気付いて聴いている。	① 曲の気分を感じ取つて、歌詞に合った強弱や声の表情を工夫している。 ② 歌詞の内容に合わせ、演奏の仕方を工夫している。	① 歌に合った音色でリコーダーパートを演奏している。 ② 曲の気分を生かしながら、歌とリコーダーを合わせて演奏している。 ③ 拍の流れに乗って主旋律や楽器パートの旋律を演奏している。 ④ 様々な表現の工夫に合わせて演奏している。	① 楽曲の特徴や変化と、想像した様子の関連を感じながら聴いている。

## 6. 指導計画と評価（9時間扱い）

次 次	時	学習内容・活動 【教材】	具体的 評価 規準	各活動にお ける指導事 項との関連		共通事項			教師の支援と 評価方法 ◇支援 ♪評価方法
				表現	鑑賞	ア	イ		
第1次	1	【ちびっこカウボーイ】 ○曲の感じをつかんで歌詞唱する。	ア-①	(1)ア		旋律	変化	プレス	◇曲想の確認 ♪活動観察 ♪歌唱聴取
	2	○強弱や、声の表情を工夫して歌う。 ・歌詞の意味をつかむ。	イ-①	(1)イ		強弱			◇歌詞の吟味 ♪書き込み ♪歌唱聴取 ♪ワークシート
	3	○リコーダーパートを練習し、歌と合わせて演奏する。	ウ-① ウ-②	(1)エ (2)エ		音の重なり		タイ	◇音の確認 ♪活動観察 ♪演奏聴取
第2次	4	【ハックルベリーフィン】 ○場面の様子を思い浮かべたり、楽曲の特徴や変化を感じたりしながら聴く。	ア-② エ-①		(1)ア (1)イ (1)ウ	音色 強弱 速度	変化 反復		◇物語のあらすじ紹介、挿絵提示 ◇アドバイス ♪発言・表情・記述

	5	【ゆかいな木きん】 ○主旋律を歌詞唱・階名唱する。 ・曲の感じや歌詞の意味をつかむ。	アー①	(1)ア (1)イ		旋律 リズム		八分 休符	◇音の確認 ◇歌詞の吟味 ♪活動観察 ♪演奏聴取 ♪ワークシート
	6	○主旋律と楽器パートの旋律を練習する。	ワー③	(2)ア		旋律 音色		四分 休符	◇音の確認 ◇個別指導 ♪演奏聴取 ♪ワークシート
第3次	7	○主旋律と、楽器パートの旋律を合わせて演奏する。 ・自分の演奏するパートを決定する。	ワー③	(2)エ		旋律 音の重 なり			◇音の確認 ◇個別指導 ♪演奏聴取 ♪ワークシート
	8 (本時)	○歌詞の内容に着目し、演奏の仕方を工夫する。	イー②	(2)イ		強弱 速度	反復		◇拡大譜の提示 ♪活動観察 ♪演奏聴取 ♪ワークシート
	9	○グループごとの演奏を聞き合い、そのよさに気付き、合奏する。	ワー④	(2)イ (2)エ		強弱 速度 音の重 なり			◇拡大譜の提示 ♪活動観察 ♪ワークシート

## 7. 本時の指導 (本時 8 / 9)

### (1) 本時の目標

歌詞の内容に着目し、演奏の仕方を工夫する。

### (2) 研究の視点と、学年部研究の視点との関連

#### 【視点 1】に関して

中学年部(1)「思いや意図をもって歌ったり演奏をしたりしながら、進んで音楽にかかわりをもたせる指導の工夫」

#### ① 指導過程の工夫

- 「この曲はこんな演奏にしたい。」「ここの部分はこう演奏するのがいいね。」という思いをもたせるために、旋律だけではなく歌詞にも注目させておく。曲想を感じるためには歌詞も手がかりになると考えられるので、その内容をよりどころにして演奏表現の工夫につなげられるようにする。
- 歌詞の内容から感じ取ったことを演奏表現に生かすために、強弱や楽器の選択を工夫することで、同じ曲でもいろいろな表現の仕方があることに気付かせる。その際、教科書ではなく、ワークシートを使って自分たちの考えを書き込んでいくようにする。

#### ② 学習形態の工夫

- 歌詞の内容から表現を工夫させる活動では、手がかりとなる部分に気付くことが大事であると考える。そこで、個人で考える時間、グループで話し合いながら演奏に取り組む時間、そして、グループごとの発表を聴き合う時間というように活動形態を工夫しながら、多くの意見に触れさせ、曲の表現の仕方について考え

を共有することができるようにならたい。

- 曲に工夫をして演奏する活動では、グループ活動を取り入れる。少人数での話し合いを通して工夫する部分を考えたり、他のグループの演奏を聴いたりすることによって、同じ曲でも違う工夫ができるように気付かせる。

### ③ ワークシートの活用

- 一人ひとりが演奏への思いをもって取り組んでいけるように、ワークシートを活用する。1番と2番の歌詞の違いを見付け、どのような演奏の違いを出したらよいかを考えさせることで、個々の思いをグループ演奏で反映しやすくなると考える。

## (3) 学習活動の展開と評価

学習活動	・は予想される子どもの反応	◇教師のかかわり	♪は評価
1 「ゆかいな木きん」を演奏する。 (1) 主旋律を歌詞唱する。 ・歌詞はもう全部覚えたよ。 ・明るい声で歌おう。 ・こざるやこぶたの気持ちを考えて歌おう。 (2) 主旋律や楽器パートの旋律を鍵盤ハーモニカやリコーダーで演奏する。 ・間違えないで演奏するぞ。 ・楽器と楽器が重なるときれいだね。		◇「ゆかいな木きん」を歌詞唱させたり、楽器を使って演奏させたりすることで、前時までの学習内容を振り返ることができるようになるとともに、その習熟を図っていく。さらに、前時よりよくなっている部分やできているところを大いに認め、励ますことで、自信をもってその後の活動に取り組むことができるようになる。	
2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">1番と2番のちがいを考えて えんそうしよう</div> ・1番と2番で違いが出るように演奏するんだね。 ・どこで違いが出せそうかな。 ・どうやったら違いが出るかなあ。		◇「1番と2番の違い」というように焦点化して課題を提示し、1番(こざる)と2番(こぶた)の歌詞からキャラクターの違いを確認させる。その上で、1番と2番で同じ歌詞の部分がある点にも気付かせ、工夫の糸口を見つけられるようにする。 ◇1番と2番の違いを表現するための工夫の仕方は様々であるということを児童に伝え、その後の活動に対する意欲を喚起する。	
3 演奏の仕方を工夫する。 (1) 自分なりに違いや工夫したいところを見付け、その仕方を考える。 ・こざるは「ゆかい」だけど、こぶたは「びくびく」だから強さが変えられそうかな。 ・1番だけは楽器を入れて弾んだようなリズムを加えてもいいかな。 ・「コンコンコン」だけ、楽器を入れてみてもいいかな。動物が違うから、楽器も変えたらダメかなあ。 (2) グループごとに曲の工夫を考えて演奏する。 ・ぼくは〇〇の違いを見付けたよ。速さを		◇ワークシートを活用し、児童一人一人が自分の思いを確かにもって、その後のグループ学習に臨むことができるようになる。自分で考えたことについては赤色で、その後のグループ学習で決まったことについては青色で色付けさせ、児童一人一人の学びのプロセスが確かめられるようにしておく。 ◇鍵盤ハーモニカや、リコーダーで強弱を表現することの難しさを話し、楽器を加えてもよいことを伝える。その際は、一度に一種類の楽器のみ使用することにさせる。	

<p>変えて演奏するといいと思うんだけど。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは□□の違いを見付けたよ。強い・弱いを付けると違いを出したことになるんじゃない。</li> <li>・よし、それぞれの考えをやってみよう。</li> <li>・鍵盤ハーモニカと、リコーダーは強さを出すのが難しいね。うまくいかないね。</li> <li>・楽器も使ってみない?</li> <li>・オクターブ下げてみない?</li> <li>・うん、うん。いい感じ。</li> </ul>	<p>◇活動を支援しながら、評価していく。  <b>イー② 観察・ワークシート、演奏聴取、学習カード(事後)</b>  ♪歌詞の内容に合わせ、楽器の演奏の仕方を工夫することができたか。  <b>【Aと判断する姿】</b>  歌詞の内容から、根拠を明らかにして、強弱や速度、奏法などを工夫しながら演奏している。  <b>【Cへの手だて】</b>  歌詞と一緒に読み返し、強弱や速度、奏法を変えられそうな箇所を示して選択させ、その工夫について示唆する。</p>
<p>(3) グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕たちと同じ工夫だ。</li> <li>・私たちと違う演奏の仕方をしているよ。</li> <li>・練習どおり、うまくいったぞ。</li> <li>・僕たちの気持ちが伝わったかなあ。</li> </ul>	<p>◇他のグループとは違う工夫をしている2～3グループを選んで発表させる。その際発表するグループには自分たちの考えた工夫を言わせてから演奏させる。そうすることで、聴いている児童が工夫した点を意識して聞くことができるようにする。演奏後に感想を発表させ、聴き手にどう伝わったか確認できるようにするとともに、次時の学習にも生かすことができるようにする。また、発表したグループにはなぜそのような工夫をしたのか、根拠を述べさせるようとする。</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は工夫するところを見付けて演奏することができたよ。</li> <li>・友達と力を合わせて演奏することができた。</li> <li>・発表もうまくできたよ。</li> <li>・授業の初めにひいた感じと違うぞ。曲の気分が出てるなあ。</li> </ul>	<p>◇振り返りカードを活用し、本時における自分や友達の頑張りを振り返らせる。教師もグループごとのよさを具体的な言葉で称賛し、活動に対する成就感や他グループのよさを味わわせるとともに、次時の学習につながる課題をもつことができるようとする。</p>
<p>5 次時の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○ちゃんのグループの演奏を真似してみたい。</li> <li>・次はまだのグループが発表するね。楽しみだな。</li> </ul>	<p>◇次時では、本時で発表していないグループが演奏することや、各グループが工夫した点を学級全体で演奏するという学習内容を知らせることで見通しをもたせるとともに、学習に対する期待感を膨らませる。</p>

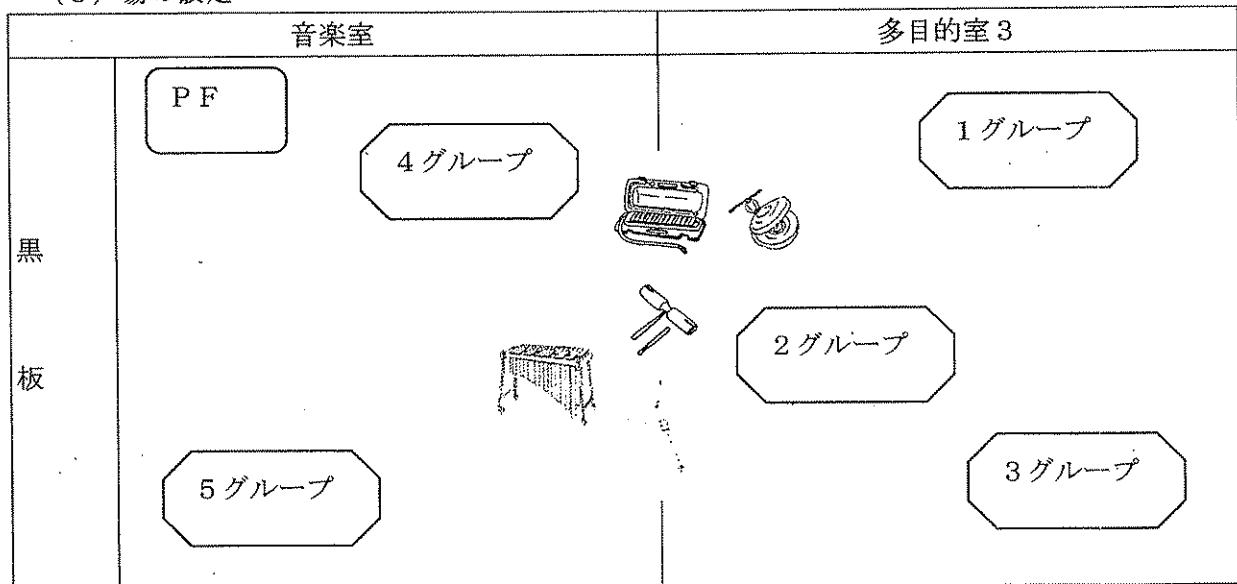
(4) 板書計画

ゆかいな木きん	1番と2番の ちがいを考えて えんそうしよう	拡大譜	1番 楽しい 明るい ウキウキ	2番 びくびく ドキドキ
---------	------------------------------	-----	--------------------------	--------------------

<工夫のために…>

- \* 速さ
- \* 強さ
- \* えんそうの仕方

(5) 場の設定



※各グループに木琴1台, カスタネット1個, ウッドブロック1個用意しておく。

7 学年部研究の計画と実践概要



日付	学年・名前	題材名
9/24	4年1組 千葉 敏弘(402組)	曲の気分を感じ取ろう
10/31	3年2組 小関 保仁	曲の気分をかんじとろう
11/27 (公開)	3年1組 尾形 裕子	曲の気分をかんじとろう
12/14	4年1組 赤間 浩司	お話を音楽で